



発行

東京北区渋沢栄一プロジェクト

渋沢翁の肖像写真、及び一部の写真は渋沢史料館所蔵のものとなります。
本書の編纂にあたり、渋沢栄一記念財団渋沢史料館企画展図録「王子・滝野川
と渋沢栄一」を参考にしております。

発行日：2022年7月



LOVE LIVE LEAD

渋沢 × 北区

渋沢史料館所蔵

LOVE

LIVE

LEAD

渋沢 × 北区

渋沢栄一

1840 ~ 1931

2024年に一万円札の顔となることが決まった**渋沢翁**。

「日本資本主義の父」といわれ

500近い会社の設立・育成に尽力した**渋沢翁**は、幕末から昭和初年までの凄まじい社会の変化の中で、行動や立場を自ら進んで変えて日本を導いて行った。

変わることを恐れなかった 渋沢翁は、

人生の拠点を **北区、飛鳥山** の地においていた。

北区を **愛し/LOVE、**

北区に **住居を構え/LIVE、**

北区で **日本を導いた/LEAD。**

本パンフレットでは北区と**渋沢翁**の関係、北区で新たに始まる**渋沢翁**をテーマとしたシティプロモーションについて紹介していく。



渋沢史料館所蔵

変わることを恐れなかったその人生。

渋沢翁は1840年、現在の埼玉県深谷市の農家に生まれました。家業の畑作を手伝う一方、幼い頃から「論語」などを学びます。「尊王攘夷」思想の影響を受けた渋沢翁は、高崎城を乗り取り、横浜外国人居留地を襲撃する計画を立てますが、中止して京都へ向かいました。郷里を離れた渋沢翁は一橋慶喜に仕えることになり実力を発揮し、次第に認められていきます。

27歳の時**パリの万国博覧会**を見学するほか、欧州諸国の実情を見聞し、先進諸国の社会の内情に広く通ずることができました。明治維新となり欧州から帰国した渋沢翁は「商法会所」を駿府（静岡）に設立、その後明治政府に出仕し民部大蔵省の一員として新しい国づくりに深く関わります。1873年に大蔵省を辞した後、渋沢翁は**民間経済人**として活動しました。第一国立銀行を拠点に株式会社組織による企業の創設・育成に力を入れ、「道徳経済合一説」を説き続け、生涯に約500もの企業に関わった他、約600の教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力しました。世界の動きを一早く読み取り、それに合わせるように立場を変えていき、日本を導いて1931年91歳でその生涯を閉じました。

その人生の拠点となった地は、**東京都北区**でした。

年表	和暦	年齢	主な出来事
1840	天保11年	0	2月13日(旧暦)、現在の埼玉県深谷市血洗島に生まれる。
1864	文久4年	24	一橋慶喜に仕える。
1867	慶応3年	27	徳川昭武に従ってフランスへ出立(パリ万博)
1869	明治2年	29	明治政府に仕える。
1873	明治6年	33	抄紙会社創立(後に王子製紙株式会社・取締役会長)。
1877	明治10年	37	飛鳥山に土地を購入し、翌年に別荘工事着工。
1879	明治12年	39	グラント将軍(元第18代米国大統領)歓迎会
1887	明治20年	47	日本煉瓦製造株式会社創立・発起人(後に取締役会長)。
1901	明治34年	61	東京・飛鳥山邸を本邸とする。
1931	昭和6年	91	11月11日永眠。

渋沢翁が愛した北区

～王子製紙の立ち上げ～

明治5年、渋沢翁は製紙事業を官営で行うことを建議し、翌明治6年、抄紙会社の設立願書を提出して認可されました。

工場の敷地選定に際しては、渋沢翁自身も各地を調査したあと工場用水の面などから王子に決定しました。

王子地域と渋沢翁との関係はまさに同社設立から始まり、渋沢翁は同社を近代的な機械工場の模範として広く知らしめたいと考えていたそうです。

～北区に残る、抄紙会社の足跡～



紙の博物館

洋紙発祥の地である北区王子に設立され、55,000点の資料と図書を展示公開する世界でも数少ない紙専門の総合博物館。



洋紙発祥の地碑

抄紙会社の工場創立80周年を記念し、昭和28年にJR王子駅前の跡地に建てられました。

～飛鳥山に残る、渋沢翁の史跡～



旧渋沢庭園

渋沢翁の邸宅跡地の庭園が、現在飛鳥山公園の一部として開放されています。



青淵文庫

1925年に竣工し、渋沢翁の書庫としてまた接客の場としても使用された、国指定重要文化財。



晩香廬

国内外の賓客を迎えるレセプションルームとして使用された、国指定重要文化財。



渋沢翁の全身像

晩香廬を見渡すように佇む、北区に残る唯一の渋沢翁の全身像。

時代の「始動」の拠点となった北区

～この地で迎えた要人たち、渋沢翁が導いた地域～

渋沢翁の飛鳥山邸は単なる私邸にとどまらず、多くの賓客を迎える接待の場としても利用されました。最初の海外からの来客はグラント將軍でした。以降、渋沢翁は飛鳥山邸に国の内外や分野を問わず多くの賓客を迎え、重要な会議の場、また民間外交の場として活用し新たな時代を「始動」させていく拠点となっていたのが、まさにこの北区という地でした。

飛鳥山邸で迎えた要人たち



徳川慶喜
(江戸幕府第15代将軍)
渋沢史料館所蔵



グラント將軍
(元第18代米國大統領)
渋沢史料館所蔵



カラカウア王
(ハワイ王国第7代国王)



タゴール
(インド詩人・
ノーベル文学賞受賞者)
渋沢史料館所蔵

渋沢翁は日本の近代経済社会の発展に尽力していく中で、王子・滝野川地域への助言や寄付なども行い、地域の発展を大事にしました。

滝野川町役場庁舎の新築、滝野川警察署、消防、小学校など、町行政の整備に対して支援をしました。また、滝乃川学園、愛の家、北豊島郡教育会、西ヶ原青年会など地域の社会教育・文化事業にも関わり、その他に西ヶ原互親会など地域住民による自治組織の発展の援助等も行い、北区を新たな時代へ導いていきました。

～飛鳥山周辺に残る、渋沢翁の足跡～



七社神社

旧西ヶ原村の鎮守で、渋沢翁は同村内に飛鳥山邸を構えたことをきっかけに氏子となりました。



旧醸造試験所第一工場

渋沢翁が設立した日本煉瓦製造会社のリングで作られ、酒類の醸造試験、酒類醸造講習の実習工場として利用されました。国指定重要文化財。大河ドラマ「青天を衝け」後半メインビジュアルの撮影地。



音無橋（音無親水公園）

都市景観100選に入る音無親水公園に架かる、音無橋。渋沢翁が建築・開通を支援しました。



旧古河庭園

第一銀行時代の渋沢翁が相互に支え合った古河市兵衛。その息子である古河虎之助の本邸で、国の名勝に指定されています。洋風庭園では、春と秋に約100種のバラが咲き誇ります。

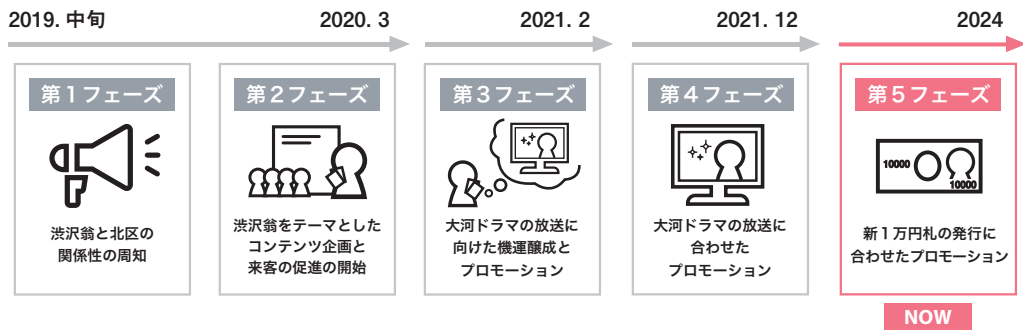
渋沢翁が住んだ北区

～本邸を構えた飛鳥山～

東京北区渋沢栄一プロジェクト

変化を恐れず時代にに合わせて**変化し続け**、私益ではなく社会の実現のために事業を推進する「**合本主義**」を提唱し、**行政と民間が協力をする考え**を唱えた渋沢翁。その渋沢翁が人生の拠点とした北区で、シティプロモーションがスタートしています。渋沢翁が残した教えや考え方をベースに、北区と様々な民間団体との公民連携の体制でのシティプロモーションによるブランディングを行い、北区を新たな時代へ導いていきます。

プロジェクトのスケジュール



WEB サイト・SNS・問い合わせ先

東京北区渋沢栄一プロジェクト LOVE LIVE LEAD WEB サイト

本プロジェクトに関する情報、プレスキット、新着情報、各WEBサイトへのリンク等を取り扱っています。



スマートフォンからご利用いただけます。

渋沢 北区 検索

<http://shibusawakitaku.tokyo/>

SNS (Twitter, Facebook, LINE)

北区に残る渋沢翁ゆかりの地やお土産についてなど様々な情報を発信しています。ぜひフォロー、友達追加をお願いします！



<https://twitter.com/shibusawakitaku/>



<https://facebook.com/shinbusawakitaku/>



<https://lin.ee/R0YXPGU>

①プロジェクト全般について

北区政策経営部
シティプロモーション推進担当課

TEL: 03-3908-1364 FAX: 03-3905-3422
住所: 東京都北区王子本町1-15-22
区役所第一庁舎3階1番

②北区の観光について

東京北区観光協会
渋沢プロジェクト担当

TEL: 03-5390-1166 FAX: 03-5390-1167
住所: 東京都北区王子1-11-1 北とびあ1階



北区内の渋沢翁関連プロジェクト

北区では渋沢翁に関する様々なプロジェクトが行われています。プロジェクトごとに様々な団体が連携を行い、オール北区で渋沢翁のまちを盛り上げています。

しぶさわくん

東京北区渋沢栄一プロジェクト広報キャラクター「しぶさわくん」。飛鳥山で誕生し、渋沢翁の考えや活躍を今に伝えています。シルクハットとステッキがトレードマーク。SNSアカウントでは、しぶさわくんの日常がのぞけます。

Twitter

Instagram

渋沢×北区 飛鳥山おみやげ館

渋沢翁が好んだオートミールを使用した食品、幼少期ゆかりの藍染雑貨、新1万円札関連商品などストーリー溢れるオリジナル商品をお楽しみください。通販サイトもあります。

場所: 飛鳥山公園旧渋沢庭園内(管理事務所隣)

URL <https://shibusawakitaku.tokyo/omiyage/>

Kバスラッピング車両

北区内を走るコミュニティバス(Kバス)の1台を「しぶさわくん」デザインにラッピング。区のシンボルである桜をモチーフにし、区民が渋沢翁ゆかりの地として誇りと愛着を持てるよう想いを込めました。ポップでかわいいデザインに注目です。

運行期間: 2021年2月1日～3年間(予定)

渋沢栄一ラッピングポスト

飛鳥山公園の向かいにある飛鳥山前郵便局に「渋沢栄一ラッピングポスト」が設置されました。区内郵便局の発案により、北区がデザインを提供する形で実現。ポストには渋沢翁が描かれているほか、銀行、鉄道、ビール、ガスなど手がけた事業が表現されています。北区の新たな人気スポットになりそうです。

飛鳥山 Hawai'i Festival

140年ほど前、渋沢翁とハワイのカラーカウア王が出会った場所で、「飛鳥山 Hawai'i Festival」を開催。フラの舞台はもちろん、ハワイアンショップも店出し、ハワイにいるような気分を味わえるイベントです。

開催日: 2021年10月30日
2022年10月8日、9日

主催 一般社団法人東京北区観光協会

Shibusawa Garden Special Holiday

渋沢翁が住居を構えた旧渋沢庭園にて、当時の食事をイメージした飲食イベントを開催。優雅なひと時をお過ごしいただけます。

開催日: 2020年10月30日～11月1日
2021年11月20日、21日

主催 一般社団法人東京北区観光協会

しぶさわくんとめぐる渋沢栄一が1万円札になるまでの物語 ～北区王子の産業遺産～

日本資本主義の父・渋沢栄一の暮らした北区王子周辺の産業遺産の魅力や、渋沢翁が1万円札になるまでの物語に沿って紹介しています。ガイドキャラクターのしぶさわくんと、北区の産業遺産について楽しく学びましょう。裏面の4コマ漫画も必見。

配布場所 紙の博物館やお札と切手の博物館等一部の産業遺産関連施設、区内の観光情報コーナー

「東京人」特集号

雑誌「東京人」と北区がコラボして、「渋沢×北区」の特集号を制作。北区の魅力がぎゅっと詰まった一冊です。各界の著名人・有識者が、飛鳥山の邸宅跡や区内の各所に残る渋沢翁の足跡をたどります。芥川龍之介と渋沢翁のつながりを綴った記事など、北区ならではの記事も必見です。

発売日: 2021年1月14日

北区区民大学

東京北区渋沢栄一プロジェクトの一環として、渋沢翁を題材とした北区区民大学の講座を実施しています。

- 令和2年度開催講座「渋沢栄一の生き方に学ぶ～思想と行動～」
- 令和3年度開催講座「若き渋沢栄一と幻の将軍徳川昭武」

お問合せ 生涯学習・学校地域連携課 03-3908-9323

「しぶさわエール」城北信用金庫×渋沢栄一

北区に本部を構える城北信用金庫は、渋沢翁に関するプロジェクトで地域を盛り上げています。しぶさわくんとコラボレーションし、デザインキャッシュカードを取り扱い。特設ページでは、区内事業者が開発したお土産を紹介しています。

URL <https://www.shinkin.co.jp/johoku/community/shibusawa/index.html>

東京商工会議所

140年前に渋沢翁が初代会頭となり設立された東京商工会議所。北支部はシティプロモーション・まちづくり分科会を立ち上げ、まちの魅力向上に取り組んでいます。東商のホームページでは渋沢栄一記念事業に関わる特設ページを開設しています。

URL <https://www.tokyo-cci.or.jp/shibusawa/>

渋沢栄一クイズラリー

北区内の老舗の店主達が中心となり王子・飛鳥山を舞台にまちおこしを目的に開催。クイズを通して渋沢翁について知ることや、店主と地域の歴史やまち自慢などを語り合うこともできるイベントです。

主催 (有) Kブランニング お問合せ 03-3943-1790

王子飛鳥山 アクセス抜群！ 渋沢翁のテーマパーク

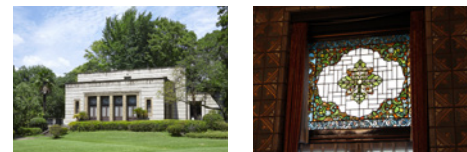
飛鳥山には、渋沢史料館や紙の博物館など、ここにしかない渋沢翁を深く知ることができる施設やコンテンツがたくさん！ここでしか買えない渋沢翁の商品が並ぶおみやげ館も！



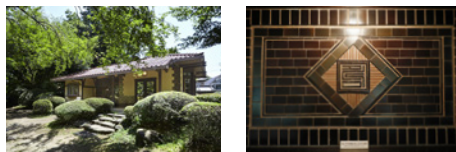
旧渋沢庭園 (飛鳥山公園内)

渋沢翁が30年間暮らした飛鳥山。建設した本部には、つなぎ合わせた日本館・西洋館を中心に、茶室、文庫などが庭内に点在していました。庭園は現在飛鳥山公園の一部として開放中。

青洲文庫 書庫・接客の場として使用！
渋沢家の家紋である「丸に違い柏」にちなんだデザインのステンドグラスやタイルは、息をのむ美しさです。



晩香廬 レセプションルームとして使用！
タイルで作られた「寿」の文字など、渋沢翁への祝意が随所に見られます。



渋沢史料館

飛鳥山にある渋沢翁の活動を広く紹介する博物館。渋沢翁の生涯と事業に関する資料を取覧・展示し、関連イベントなども随時開催。2020年11月19日にリニューアルオープンしました。晩香廬・青洲文庫の内部公開も行っています。

住所 〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-16-1 (飛鳥山公園内)

北区飛鳥山博物館

北区の歴史・自然・文化に関して幅広く展示する区立博物館。江戸時代の名所・王子飛鳥山の様子を楽しく解説した映像作品の上映や、当時の花見弁当の再現など、大人も子どもも楽しめるコンテンツが盛りだくさんです。

住所 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 (飛鳥山公園内)

紙の博物館

渋沢翁の提唱・主導により日本で初めて大規模な近代的製紙工業が操業を始めた「洋紙発祥の地」、北区王子に設立。55,000点の資料と図書を展示公開する世界でも数少ない紙専門の総合博物館。2020年に創立70周年を迎えました。

住所 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3 (飛鳥山公園内)

飛鳥山3つの博物館ホームページ ▶ <https://www.asukayama.jp/>

渋沢×北区 飛鳥山おみやげ館



渋沢翁が好んだオートミールを使った食品、幼少期ゆかりの藍染雑貨、新1万円札関連商品など、ストーリー溢れるオリジナル商品をお楽しみください！北区の銘品も数多く取り揃えています。

場所 飛鳥山公園旧渋沢庭園内 (管理事務所隣)

開館時間 11:00~16:00
※時期によって変更になる場合があります

休館日 毎週月曜日 (祝日は開館し、翌平日に振替休館)

電話番号 080-4787-9842

飛鳥山おみやげ館
<http://shibusawakitaku.tokyo/omiyage/>

おみやげプロジェクト

おみやげ館が出来る2021年まで、区内で渋沢翁に関するおみやげは数点しかありませんでした。渋沢翁の新1万円札肖像決定を受け、公民連携でおみやげ開発プロジェクトを立ち上げました。開発助成金を設けたり、区内の様々な事業者様に開発の声をかけを行い、約300点を超えるおみやげが誕生。趣向を凝らしたおみやげは必見です！



ECサイト(インターネット通販)



「遠方でおみやげ館に足を運べない」というお声を多数いただき、ECサイトを立ち上げました。大人気ぶさわくん商品を中心に区内のおみやげ等約20種類を販売しています。今後も商品を増やしていくことで、より多くのお客様にご利用いただけるようになります。

出張おみやげ館



王子飛鳥山や区内商品の魅力をアピールするために15カ所以上で出張販売を行いました。他出店者と連携することでイベントの集客力が増し、多くのお客様に足を運んでいただきました。区内ガイドマップも配布することで北区への誘致も図っております。今後も継続的に行う予定です。

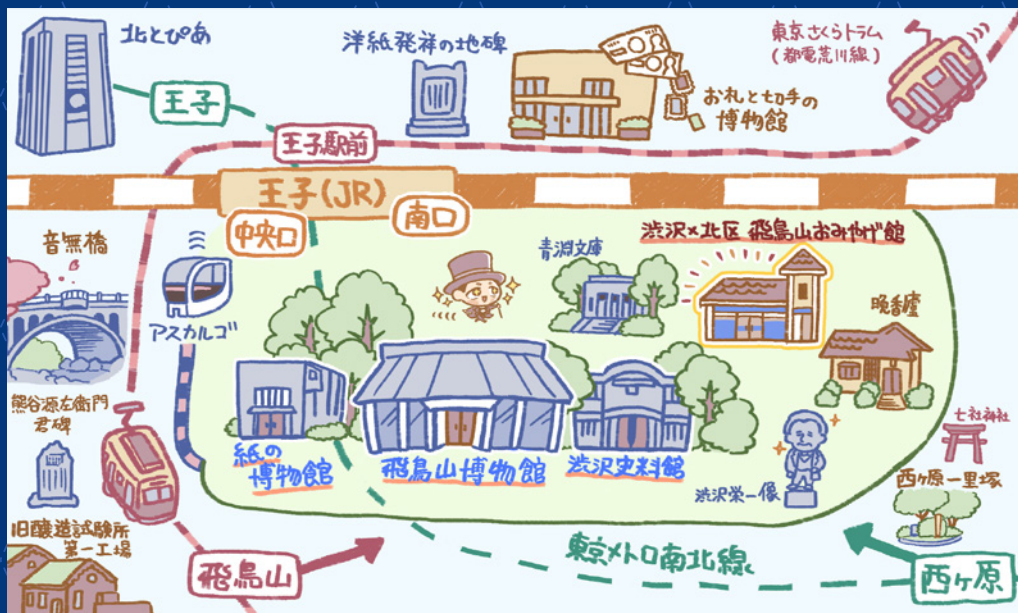
フォトスポット



大河ドラマ館開館にあわせ、10~20代の若い世代にも関心をもってもらうため、「JINSHA Project」を立ち上げ、渋沢翁をはじめ主要キャラ4体をイケメンキャラクター化しました。今後は、区外とも連携し、新キャラクターの製作、スタンプラリーの開催やパネル展示等を行います。

北区に残る渋沢翁ゆかりの地マップ

北区には、渋沢翁ゆかりのスポットがたくさん。飛鳥山を巡ったあと、渋沢翁の足跡を辿ってみてはいかがでしょうか。



① お札と切手の博物館

王子にあるお札と切手の歴史について学べる博物館。お札の偽造防止技術の歴史や、各世代のお札や切手を知ることができます。現在、渋沢翁が肖像となる新1万円札のイメージ図の展示などが行われています。

URL <https://www.npb.go>

住所 〒114-0002 東京都北区王子 1-6-1



② 洋紙発祥の地碑

JR王子駅前のサンスクエアにある「洋紙発祥の地碑」。1873年、欧州視察から帰国した渋沢栄一が「抄紙会社」を設立したことを記念して、1953年に王子製紙の跡地に建てられました。

場所 王子駅前サンスクエア
(東京都北区王子 1-4-1)



③ 熊谷源左衛門君碑

王子村の組頭役であった熊谷源左衛門は、用水や用地の調停に奔走し、後に渋沢翁が設立する抄紙会社をこの地に誘致しました。この碑には彼の業績が記されています。

住所 〒114-0002 東京都北区王子本町 1-1-1 先
(音無親水公園内)

④ 音無橋

音無親水公園に架かるアーチ型鉄筋コンクリート橋。昭和4年12月に起工し、同6年1月に竣工しました。その建築にあたり、渋沢翁は支援を行いました。

住所 〒114-0002 東京都北区王子本町 1-1-1 先
(音無親水公園)



⑤ 旧醸造試験所第一工場

渋沢翁が設立した日本煉瓦製造株式会社のレンガで作られ、酒類の醸造試験、酒類醸造講習の実習工場として利用されました。国重要文化財。

住所 〒114-0023 東京都北区滝野川 2-6-30
(醸造試験所跡地公園隣接)

⑥ 西ヶ原一里塚

大正初期に、西ヶ原の一里塚と榎は東京市電の軌道敷設で撤去の危機に瀕しましたが、渋沢翁をはじめ東京市長、滝野川町長、地元住民の努力により保存に成功しました。

住所 〒114-0024 東京都北区西ヶ原 2-4-2



⑦ 七社神社

渋沢翁が氏子となった神社。境内には、渋沢翁が「飛鳥山別業南園」にあった松が枯れことを深く悲しみ、友人の漢学者・三島中洲に文章の作成を依頼、自ら揮毫して建てた「枯松を祭る文の碑」があります。

URL <https://nanasha.jp/>

住所 〒114-0024 東京都北区西ヶ原 2-11-1